

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第147回

【学生の目】

休日由市川市内を歩いた際、一棟の住宅が目が止まった。白い外壁の3階建ての建物で、各階の造りが微妙に異なり、一見すると戸建て住宅と思える。しかし、各階に玄関があり、塀には3つの表札と郵便受けがあることから、共同住宅と推察できる。

大きな階段

がれる造りになっているほか、雨樋も目立たないように配置されている。細かいところにまで費用をかけた配慮の行き届いた住宅に思える。しかし、一般住宅の物とは思えないほどの大きな外階段がアンバランスだ。太い桁と細かい手すりの堅格子が不釣り合いで、後付けしたと思われる白い板が階段の大きさを強調する結果となっている。広い住宅玄関

設置可能な階段とした可能性もある。さらに、両手に荷物をもって昇降するには内法寸法1段は欲しいところだ。買い物帰りの主婦に配慮したのかもしれない。そして、一つしかない階段で容易にすれ違いできるように配慮したのかもしれない。

16(平成28)年度内閣府税制改正では少子化対策の一環として「三世代同居に係る税制上の軽減措置の創設」が盛り込まれた。出産や子育てへの不安が大

三世代同居を先取りした住宅

1階の外壁位置が上階の壁の位置からさりげなく後退して駐車スペースを確保し、各階にある出窓がアクセントになっている。電動シャッター式の戸戸が付いている、屋上に上

を確保していることも階段を一層突出すことになっている。全体に重々しく無骨で、こざだけ見ると何処かの工場のような。

きいことが少子化の要因の一つであることを踏まえ、安心して子どもを育てられる環境整備手段として、世代間の助け合いを図るための三世代同居を目的とするリフォームを税制面で促進する。三世代同居を目的として、自ら所有し居住する住宅のキッチン、浴室、トイレ、玄関の増設などを行ったときに、工事費用の年末ローン残高の一定額を所得税額から一定期間控除するものだ。

配慮のある住宅部分とセンスに欠ける階段のアンバランスに不思議を感じたが、三世代同居には適した造りとなっている。時代を先取りした住宅と考えると良い教材だ。

【教員のコメント】

必要最小限でしかない隣地アパートの階段と比べ、階段が主役の造りとなっている理由を若い感性で分析した。三世代で使う期間は建物寿命の中で長くはないが、三世代同居にも使える利用の可変性が重要で、建築計画の常識を変える必要がある。



高橋 佑介
不動産学部4年



アンバランスなほど大きな階段がある家